## （３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

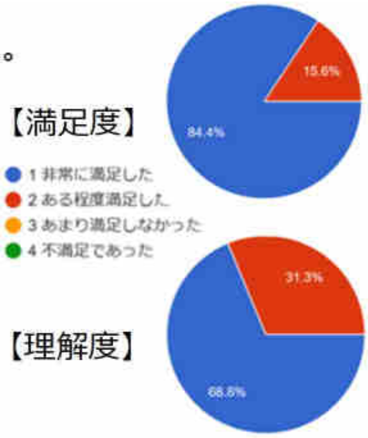
| | |
|---|---|
| NITS・教職大学院等<br>コラボ研修プログラム<br>支援事業報告書 | 実施機関名：愛媛大学教職大学院（アルムナイ）<br>連携機関名：愛媛県内市町教育委員会、愛媛県総合教育センター、松山市教育研修センター |
| | 事業名：教師を支える環境整備　四国連携支援事業 |
| | 研修等名：【NITS・愛媛大学教職大学院コラボ研修】　アルムナイフォローアップ研修<br>―「新たな教師の学び」を支える指導主事等のキャリア開発と研修デザイン　― |
| | 開催日時：令和５年１１月１１日（土）１３時～１７時<br>開催場所：松山市教育研修センター<br>参加人数（総数）と属性：（49 人）　学校管理職７人、教諭６人、行政職 29 人、大学教員７人 |

**内容：**

１ 教育委員会との連携：全市町教育委員会への啓発依頼、連携教育委員会への趣旨説明
２ 事前研修：令和５年８月２６日（土）（オンライン 17:30-18:30）
・講師、主催者、修了生運営スタッフが、テーマの確認、研修内容、ディスカッションの視点について確認する。
・対談、提言の内容、順、全体協議の深め方、地域間交流の活性化などについて、共通理解を図る。
３ 研修会：令和５年１１月１１日（土）１３：００～１７：００
① 研修の流れ説明・講師紹介等（10 分）
② **対談**：葛上秀文　氏　　町支大祐　氏　　提言（各 20 分）➡ 対談(20 分)
　　視点：研修観の転換と指導主事に求められる力量
③ **グループディスカッション**（35 分）視点：市町教育委員会の現状と課題、指導主事の職能成長
④ **実践者提言**（60 分）視点：指導主事キャリアパス確立、研修企画等の実践事例
　鳴門教育大学大学院・徳島県上板町教頭（上原　卓氏）
　香川県高松市総合教育センター研修係長（河田祥司氏）
　愛媛県総合教育センター教育開発部長（渡部和寛氏）　愛媛県宇和島市校長（猪野啓士郎氏）
⑤ **グループディスカッション**（35 分）視点：学校支援の展望、指導主事の養成、四国連携システム等
⑥ **全体協議**　質疑応答、提言者の補足説明　※研修後の即時アンケート入力、参加者の交流等
４ 事後研修：17:00～17:30
・研修効果として、四国交流の意義と育成指標の活用と研修について、意見交流した。

**成果：**

・対談は、テーマ、研修形態の工夫により、指導主事自身の職能成長につながった。
・参加者は、「教師の新たな学び」を支える指導主事の職能成長、研修企画の在り方について理解を深め、研修の自律と研修観の転換を目指す研修企画・システム構築の具体策を展望することができた。
・県内、香川、徳島の各地域から行政職、学校管理職等が参加し、指導主事の地域間交流を通して、県、市町教育委員会における課題を明確にするとともに、今後の具体的取組内容についての示唆を得た。
・グループディスカッションを通して、指導主事の四国交流が実現し、ネットワーク構築と教育行政職の士気が高まった。
・研修会終了後も、熱い意見交流が続くとともに、名刺交換なども行われ、四国の大学、行政機関の連携事業促進が期待できる成果がみられた。




**アイディアや工夫したこと：**※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

・四国地域教職アライアンスセンターという位置づけから、今後の香川、鳴門との連携強化を目指した。
・「教師の新たな学び」の実現に向けた教育行政の機能強化を、指導主事の職能開発を視点に企画した。
・本研修自体を、従来の「講話視聴」と「グループ協議」という型から脱却し、対談形式を取り入れ、その対談内容を教材として、参加者自身の経験を語ること、互いの経験から新たな資源を創るよう、グループ協議を２回設定し、研修全体を通して、『対話』に力点を置いた。
・「参加者を主語とする研修」の実現に向けて、多様な指導主事経験の提言者で構成した。
・教職大学院修了の行政職が増加する中、県内外の交流により、教育行政の成果と課題の明確化を図った。

＜写真・図など＞　※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

1　教育委員会との連携

・参加啓発の連携及び研修会登壇者としての参加が実現し、それぞれの立場から、テーマに沿って意見交換することで、今後の研修の在り方や県内外の連携強化について展望することができた。

・教職大学院の教育行政への積極的なアプローチにより、教員研修の方向性等について検討するとともに、課題の明確化を図ることができた。

2　事前・事後研修

・企画運営者からのテーマ設定の趣旨説明に基づき、対談内容、実践者提言内容の視点を共通理解し、研修会のゴールを明確にした。中教審答申及び今後の研修システムの方向性を受け、教師に求められる「研修観の転換と主体的な学びの実現」の具現化を確認した。事後研修では、指導主事養成を含めた教師の職能成長に向け、教員育成指標をどのように活用すればよいか等について意見交換し、現状と課題の鋭角化を図ることができた。結果として、四国の交流、各県内の課題の明確化を図ることができた。

3　研修の実際　（主な協議内容及び参加者の今後の取組内容）

【対談の視点】：教師の学びを促し、支える役割として、学びをデザインする等、
指導主事に求められる資質能力（力量）は、何か。

【グループディスカッション①の視点】:教師の学びの保障や学校支援における
現状と課題、指導主事自身の職能成長

【グループディスカッション②の視点】:学びのエンジン始動に向けたマネジメント、
四国連携等

【実践者提言の視点】：指導主事のキャリアパス確立
研修企画等の具体的実践

【参加者の所感】

参加して良かった。元気が出ました。他県の指導主事さんとつながることができ、とてもよい機会でした。

指導主事になって早い時期にこのような研修に参加できていればよかったなと思いました。

自己成長に繋がる、非常に有意義な学びの会となりました。持続可能な研修会にしていただければと思います。

講師の方のお話を聞いたり、参加者で対話したりとバランスの良い学びの深まる研修でした。

指導主事に視点を当てた研修は目新しく感じ、とても興味深かった。認識の再構成ができた。

受ける機会が限られるので、大変参考になった。年に複数回あってもよいと思う内容だった。

他県の指導主事とつながる機会がいままでなかったので、非常に新鮮で楽しかった。県や市によって似た取り組みや独自の取り組みがあり、もっと聞きたいと感じました。

研修観の転換をこれから自分自身の中で考えていきたい。指導主事としての考え方を再構築できた。研修を受ける立場からと、企画する立場からの両方を考えることができました

研修観の違いについて、深く考えることができました。

自分にはまだまだ知識が無いので、知識を付けて先生方に寄り添えるようになりたいです。

個人で教育委員会は動けないため、組織での研修観をどうつくるかがポイントだと感じた。学ぶことが多く、元気になる研修でした。研修観という言葉が具体的にイメージできていませんでしたが、様々な話や取組を聞かせていただき揺さぶられ、少しイメージが湧きました。